

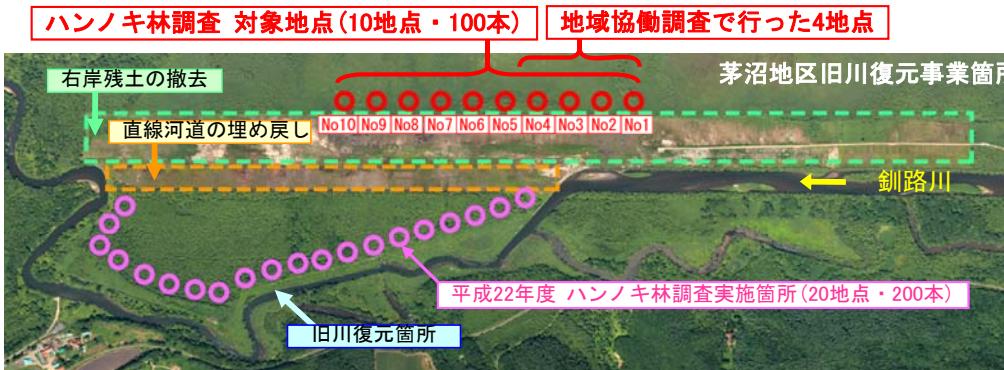
・茅沼地区旧川復元工事完了後は、旧川復元事業の目標である「①湿原中心部への土砂流入などの負荷の軽減」「②氾濫原の再生による湿原植生の再生」「③湿原河川本来の魚類などの生息環境の復元」「④湿原景観の復元」について、事業効果の検証を行うため、地域の方々とも連携してモニタリング調査を行っています。

・湿原の乾燥化の指標となるハンノキ林は、湿原の湿地化により衰退が期待されることから、モニタリング調査により事業効果を確認することができます。

ハンノキ林調査 実施概要



- 平成24年3月7日に地域の方々とも協働で、ハンノキ林調査を行いました。
- 調査本数は、全体で10地点の計100本のハンノキ林を対象に実施しました。
- 調査時期は、移動し易く、安全に湿原に入ることができる冬期間に実施しました。
- この地区では、2回目の調査となり、今後の旧川復元効果を知るうえで貴重な基礎資料となります。



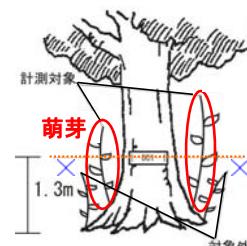
樹高計測



周囲長計測

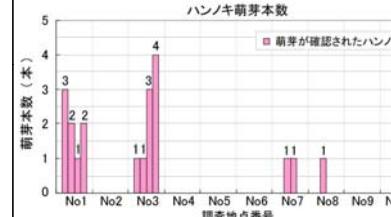
- 調査結果（調査項目：樹高・周囲長・萌芽本数）**
- 調査の結果、樹高の平均は7.8mとなり、最も高い地点No6で10.0m、最も低い地点No8で4.9mとなりました。
 - 周囲長の平均は34.3cmとなり、最も太い地点No5で45.8cm、最も細い地点No8が18.6cmとなりました。
 - 萌芽は地点No1・No3・No7・No8で確認され、ハンノキ1本に対し1本～4本の萌芽が確認されました。
 - ハンノキ林の生育状況は、中流・下流・上流の順に樹高・周囲長が大きく、調査地点の地盤状況等、環境によって大きく異なることが分かりました。

集合写真



※萌芽とは、土壌の水分量が多くなるにつれて、根から生えてくる新芽です。

萌芽本数が多くなると、ハンノキが衰退していくとされています。



事業効果

旧川復元工事完了後の植生変化

旧川復元前(平成11年調査)



茅沼地区植生分布
サギ・ハルニレ・ヤチダギ群落
ヤシキジ群落
ハンノキ群落
ヨシやスゲ群落
イヌクサ群落
牧草地やクサヨシ群落
開放水面



実施計画では100haの湿原植生の回復効果を期待しており、旧川復元後現在、ヨシやスゲ等の湿地性植物が約30ha回復しました。

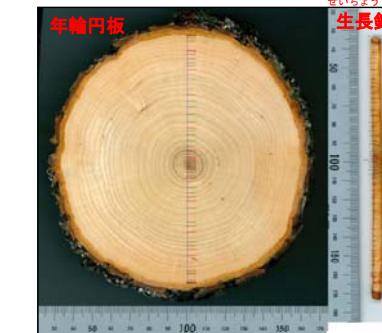
植生	復元前	復元後 (平成23年8月現況)	
		ヨシ等	ヨシやスゲ 約25ha 他湿性草地 約45ha
その他	約170ha	約140ha	クサヨシ草地等約15ha ハンノキ林 約60ha ヤシキジ等 約45ha 開放水面等 約20ha

樹齢調査

各調査地点のハンノキ樹齢を計測しました。

樹齢の計測は、年輪円板と生長錐[※]で行い、生長錐は年輪が不明瞭であったため、計測は、年輪が見易い年輪円板で行いました。

樹齢計測結果から平均樹齢は36年で、1977年頃、直線河道が整備された以降に生育したハンノキであることが確認されました。



樹齢計測結果

調査地点	樹齢(年)
No01	40
No02	43
No03	31
No04	31
No05	46
No06	37
No07	32
No08	29
No09	34
No10	33
平均	36

※生長錐とは、樹木から年輪を柱状に抜いたもので、樹木へのダメージが少なく、樹齢を簡易的に調べることができます。